

令和4年度学校自己評価システムシート (県立越谷東高等学校)

目指す学校像	志を高くチャレンジ精神に満ちた生徒を育て、きめ細かく面倒見のよい指導を実践し、地域から信頼される学校
--------	--

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒の学習力を高める。 2 生徒一人一人の希望にそった進路決定を実現させる。 3 規律ある生活態度を身につけさせ、部活動を活性化させる。 4 地域との連携を深め、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 7 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ○自発的な学習習慣を定着させるため、ベネッセclassiを全学年で活用を進めた。 ○Google Classroomを活用して、課題や連絡を継続している。 【課題】 ○進路決定に係わらず、持続して自発的な学習習慣に取り組みさせる。 ○ICTを活用した授業研究の推進や、授業公開を実施し、授業改善を進める。	○学習習慣の定着と自己学習力の向上 ○指導力の向上による組織的な学習支援体制の充実	①家庭学習を前提とした授業を展開し、学習習慣を身につけさせる。 ②実力テストの実施と結果を活用し、生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる。 ①教員の指導力向上を図るため、授業公開や研究授業を実施する。 ②ICTを活用した授業研究を実施し、授業改善に努める。 ③授業研究支援サービス等の活用により指導力向上に努め、生徒の学習意欲を高める。	①授業アンケート「予習・復習をしている。」75%以上。 ②実力テスト結果を昨年よりも向上させ、経年変化を分析。 ①授業公開を年5日実施。初任研・5年研にて、研究授業を実施。 ②各教科でICTを活用した授業研究を実施。 ③学校評価アンケート「分かりやすい授業にするため工夫している。」80%以上。	学習力の向上を図る指導が概ね達成。 ①授業アンケート「予習・復習をしている。」と回答した生徒が減少。 ②学習到達度では、1・2学年共に基礎学力の定着が見られるとともに、成績上位の生徒が安定した。 指導力向上の取組がほぼ達成できた。 ①授業公開を年5日実施。研究授業を初任研・5年研等で6回の実施。 ②各教科でICTを活用し、授業改善を行った。 ③学校評価アンケート「分かりやすい授業にするため工夫している。」は84.8%	B	Google Classroomやベネッセclassiを活用し、家庭学習の定着に向けて指導した。スタディーサポートでは、基礎学力の定着が見られ、成績上位の生徒が安定してきた。来年度も継続して家庭学習の定着に向けて指導していく。
2	【現状】 ○生徒の進路実現を図るため、計画的・組織的な進路指導を継続。 ○小論文・面接指導、ポートフォリオに基づいた指導を重点的に実施した。 【課題】 ○計画的な進路指導を継続し、生徒の進路を実現させる。 ○一般選抜での受験までを見据えた対策を充実させる必要がある。	○生徒一人一人の進路希望の実現に向けた計画的・組織的な進路指導の継続	①計画的な進路指導を実施し、生徒の進路を実現させる。 ②一般選抜での受験も見据え、進学希望者へ進学補習を実施する。 ③多様な受験形態に応じた柔軟な進路指導・面接指導を実施する。 ④就職希望者に対して、企業研究・面接指導を実施する。	①進路未決定者数を0に近づける。 ②每学期進学補習の実施。長期休業中に進学補習の実施。大学短大の現役進学者数の増加(R3 113人) ③学校評価アンケート「進路に関する情報は、生徒に十分に提供されている。」90%以上。 ④就職内定率100%。	計画的組織的な進路指導をほぼ達成。 ①進路未決定者の指導を継続して行っている。(1/17現在) ②每学期・休業中に進学補習を実施。現役進学者数118名。(1/17現在) ③「進路に関する情報は、生徒に十分に提供されている。」88.6%。 「進路指導を十分に行っている」91.9% ④学校幹旋就職希望者 内定率100%(1/17現在)	A	学校推薦型・総合型選抜の対策として、小論文・面接指導を組織的に重点的に実施し、生徒一人一人の適切な進路実現を図る進路指導を継続して行ってきた。進路研究室の移設に伴い、来年度は多様な受験形態に応じた、より効果的で柔軟な進路指導、面接指導等を実施していく。
3	【現状】 ○全職員の共通理解のもと生徒指導を実施し、落ち着いた環境を整えている。 ○新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、可能な範囲で学校行事・部活動を実施した。 【課題】 ○全職員の共通理解のもと生徒指導を継続して実施する。 ○感染防止対策を講じたうえで実施できるよう学校行事の実施方法等を工夫する。	○きめ細かく丁寧な生徒指導の実践による基本的な生活習慣の確立 ○生徒の主體的な活動の支援による部活動の活性化	①挨拶の励行。言葉遣いの指導の徹底。 ②統一基準による整容指導の徹底。 ③全教員による身だしなみ指導の実施。	①学校評価アンケート「挨拶や言葉遣いの指導を十分に行っている。」90%以上。 ②学校評価アンケート「頭髪や服装指導を十分に行っている。」90%以上。 ③毎学期に身だしなみ指導を実施。	継続した生徒指導の実践をほぼ達成。 ①「挨拶や言葉遣いの指導を十分に行っている。」87.7%。 ②「頭髪や服装指導を十分に行っている。」92.6%。 ③毎学期、年間5日間身だしなみ指導を実施。	A	全職員の共通理解のもと生徒指導を実施し、落ち着いた環境を保っている。今後も継続して規律の遵守を徹底し、落ち着いた学校生活を送れるよう指導する。
4	【現状】 ○新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで、学校説明会を実施した。 ○PTA・後援会総会、理事会は感染防止対策を講じたうえでオンラインで実施した。 【課題】 ○感染防止対策を講じたうえで、学校説明会等の内容を工夫して実施する。 ○今後もPTA・後援会と連携して生徒の健全育成を図り、学校運営に活かしていく。	○家庭や地域等への積極的な情報発信と連携・協力の推進 ○保護者と連携した学校運営の推進による本校教育活動の理解深化	①学校説明会等を通じて、魅力ある情報発信を行う。中学校訪問を全教員で実施する。 ②HPによる学校の情報発信を積極的に行う。 ③地域に貢献するため、他校種との交流や地域のボランティア活動に積極的に参加する。	①学校説明会参加者数の延べ2,000名以上。(R3 2040名) ②HPトップページの更新回数を年間50回以上、HPのアクセス数月平均10,000回以上。 ③越谷市内中学校との授業交流を実施、地域のボランティア活動に参加。	魅力ある情報発信がほぼ達成できた。 ①学校説明会中学生の参加者数は延べ1130名 (R3 中学生1154名) ②HPについて各担当と協力しながら学校の情報等を発信した。 ③越谷市立東中との授業交流実施し、本校から2教科3名が訪問。中学2年生の上級学校訪問は161名参加。川の清掃ボランティアに70名参加。	A	新型コロナ感染防止対策を講じて、学校説明会を計画通り実施した。HPにて情報発信を行うことができた。来年度は学校説明会を特色化し、HP・中学校訪問等で継続して情報発信を行う。PTA・後援会理事会は実施方法を工夫して実施した。学校行事における保護者の参加の機会を少しずつ増加している。来年度もPTA・後援会と連携し、保護者アンケートでの学校満足度の向上を目指す。
			①PTA・後援会からの意見や要望を学校運営に活かし、保護者からの学校満足度を向上させる。 ②PTA・後援会に学校行事の協力を依頼し、役員参加者数を増やし、連携を図る。	①学校評価保護者アンケート「本校に入学してよかったと感じる。」(入学満足度)90%以上 ②PTA・後援会役員の学校行事での参加者数。	保護者や地域との連携が概ね達成。 ①保護者アンケート「本校に入学してよかったと感じる。」84.0%。 ②新型コロナ感染防止の対策を徹底し、学校行事を実施した。マラソン大会では保護者30名が配給等で参加した。	B	交流事業に参加した中学生は楽しく参加できた。先生方の熱意が授業にあふれていることが伝わってきて、本当に良かった。JRC・インターアクト部は地域と連携しながら、ボランティア、募金活動等を行っており、大変よく頑張っている。PTA後援会の活動については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、行事への参加が制限され、モチベーションが下がってきている心配がある。これまでの方法を工夫するなど、学校と連携しながら考えていきたい。来年度はぜひとも学校行事で子供たちと積極的に関わるお手伝いを行ってきたい。

学校関係者評価	実施日 令和5年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>家庭学習が定着するよう Google Classroom や classi 等を利用して課題を提供したり、学級閉鎖時に実施していたオンライン授業で先生が授業をしている様子、点呼や声掛けをしている様子を見て、ICTの活用が進んでいることを実感した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応もあり、授業の様子を見ることができず、子供たちの様子を見ることができなかったため、ぜひ来年度は授業や学校行事への保護者の参加により、保護者が子供たちの状況を知ることができる機会が増えるよう期待したい。</p> <p>全教職員が協力して、小論文指導・面接指導を行い、生徒の進路実現に向けて指導を継続したことにより、現時点での進路決定状況は、昨年度の実績を維持することができた。</p> <p>より効果的な進路指導を行えるように、進路研究室を進路指導室の隣に移設した。生徒がより利用しやすく、相談しやすくなったと思うので、今後の指導に活かしていくことを期待したい。</p> <p>昨年度に比べて「あいさつ」がかなり向上したことを実感している。先生方の不断の教育の成果だと考えている。</p> <p>常に課題はあるが、情報を共有しながら取り組んでいくことが大切である。意味のない多忙を改善し、話し合いの時間を確保し、意味のある多忙にするべきである。</p> <p>部活動指導に一生懸命取り組んでいる。競技の指導、生活面もしっかり指導している。また、イベント等、生徒が楽しんで活動し、やる気をもって取り組んでいる。継続して活動できる対策を考えていきたい。</p> <p>交流事業に参加した中学生は楽しく参加できた。先生方の熱意が授業にあふれていることが伝わってきて、本当に良かった。</p> <p>JRC・インターアクト部は地域と連携しながら、ボランティア、募金活動等を行っており、大変よく頑張っている。</p> <p>PTA後援会の活動については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、行事への参加が制限され、モチベーションが下がってきている心配がある。これまでの方法を工夫するなど、学校と連携しながら考えていきたい。来年度はぜひとも学校行事で子供たちと積極的に関わるお手伝いを行ってきたい。</p>